

育児ケア成果データの見える化による 男女共同参画の気づき意識の支援に向けた検討

西川 奏[†] 山根 麻美[†] 若狭 節子[‡] 上川原 ひろみ^{‡‡} 山内 寿代^{†‡} 皆月 昭則[†]

釧路公立大学[†] 釧路市役所健康推進課[‡] 市立釧路総合病院^{‡‡} 釧路孝仁会看護専門学校^{†‡}

1. はじめに

国が主導する男女共同参画社会をめざす背景に、座視できない大きな社会問題がある。近年の調査によると、乳幼児世帯での1日あたりの育児時間が父親で約40分、母親で約180分という報告がある。母親の育児時間に家事時間を加算すると、女性の育児・家事負担は過大と推測可能である。朝、出勤し、夕方に帰宅した男性にとっては、昼間に実施した育児・家事の女性の成果というものは見えにくく、気づきにくい特性がある。本研究では、1歳未満児の育児状況（授乳とおむつ交換の回数およびタイムスタンプ）データをスマートフォンアプリケーションに記録し、外出時の男性や親族と共有する機能を実装し検証した。アプリケーションに記録したデータはクラウドで管理し、プッシュ通知する機能によってiPhone, Android 端末へ通知を送るようにした。男女共同参画社会の実現には、男性が女性の負担に気づき、育児に積極的に参加しながら家事も支援する男性の役割意識と行動の変容が不可欠である。

2. 無形的に消滅する育児成果評価への対応策

我が国の育児・家事に関連する時間は、男性は非常に短いことが報告されており、他の先進諸外国の男性と比べても3倍以上の時間差がある。家事（掃除・洗濯・夕食の準備等）の成果は有形であるため、日中に外で仕事していた男性が帰宅した後も、外出前との変化に気づきやすい特性を有する。一方で、育児（授乳・おむつ交換・抱っこ・寝かしつけ等）のケア成果は、無形になってしまう特性を有しており、例えば、授乳やおむつ交換のケア成果は実行後、直ちに無形（消滅）になる。育児の負担や成果は、場や雰囲気共有をしない限り、成果として消滅する特性がある。女性の役割を評価する際、家事・育児は、有形・無形という分類が可能である。長年、我が国では、男女の役割・ケア分担

A Study of Awareness of Gender Equality Using Childcare Data, [†]Kanade NISHIKAWA · KUSHIRO PUBLIC UNIVERSITY, [‡]Asami YAMANE · KUSHIRO PUBLIC UNIVERSITY (Fellow Researcher) / Kushiro City Office

にジェンダー・バイアスを認めないまま、誰も指摘・評価しなかった現実がある。特に、育児という最も大切なケア成果の評価は軽視され、育児負担におけるケアワークを社会は直視してこなかったこと経緯がある。

2.1 育児のケア成果を記録・可視化する効果

調査をすると男性が家事や子育てに参画するために必要な条件として、「夫婦間でのコミュニケーション」や「男性自身の家事育児に参加する抵抗感をなくす」ことを必要とする回答が多い。人間関係論の学説において父親の育児参加は、子や夫婦関係に与えるポジティブな影響も多く認められており、育児における役割・ケアへのジェンダー・バイアスを小さくすることが、我が国の少子化の脱却・幸福な育児環境を支援するだろうという仮説を導出した。現状、男性が直ちに育児の役割・ケアに従事するのは困難であるため、アプローチとしては、女性の役割・育児ケアを理解し、育児の場で女性に寄り添う姿勢なることが重要である。本研究では、時間とともに無形かつ消滅していく育児のケアワーキングのケア成果を記録共有するアプリケーションによって、育児のアクティビティを時系列データで入力することで、可視化と記録整理が可能である。また、入力されたアプリケーションの情報を男性と共有することで、積極的な育児参加をうながすことを期待した。

3. 開発の概要

本研究では最新の開発アーキテクチャを用いた。マルチ（クロス）プラットフォームに対応したMonaca IDEを用いてデバイスに依存しないスマートフォンアプリケーションを開発実装した。あらゆるユーザーデバイスに対応する必要が

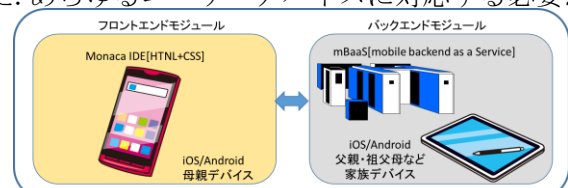


図1 アプリケーションの構成モジュール

あるため、iOS や Android, クロームなどの OS 種別を問わずに実行することが可能である。図 1 に示すようにフロントエンドの実装は HTML+CSS 環境でレスポンスブルな実行が可能であり、バックエンドではクラウドで記録データの管理・共有が可能である。

4. アプリケーションの機能・操作の概要

機能の実装では、保健医療者との共同開発によって、保健指導や育児の経験的知見から、スマートフォンアプリケーションユーザーと提供するサービスの接点の意味を立論しながら UI のデザインを検討し実装した。母性学や小児生涯発達看護学の専門的な知識を用いながら、スマートフォンアプリケーションとしての支援が可能な範囲要件を決定した。



図2 UIのトップ画面

育児のケアワーキングにおいて図2が示すように授乳開始時刻・経過時間の保存[記録]・送信が秒単位で可能であり、情報共有を迅速にした。UI デザインの操作シーケンスは育児のケアワーキングのケア順に対応しており、時系列ごとに授乳とおむつ交換のデータが記録整理されるため、データを一覧すると赤ちゃんが泣いている状態が、授乳間隔の時期なのか、おむつ交換の時期なのか、あるいは、室温変化など、他の異変なのかも類推できるような気づき支援が可能になるように設計した。アプリケーションのローカルストレージとクラウドに記録されたデータは、病院前の状況を医療機関受診時に医師へ正確に伝える支援を想定したインターフェイスデザインにした。また、記録データは、母親だけでなく夫やパートナー、祖父母などの近親者にも共有することが可能である。母親以外が、授乳記録やおむつ交換を閲覧することによって、母親のケア負担の共有・共感理解になり、周囲からの育児参加の促進につなげるように期待して実装した。

4.1 バックエンド機能 (クラウド)

iOS や Android のモバイル端末の区別なく Cloud にデータを保存・管理できるようにした。そして、時間粒度ごとにマーク (ほ乳瓶アイコンまたは、おむつアイコン) をタッチすることによってデータを振り返り整理 (タイムシフト) しながら確認することができるようにした。



図3 記録・管理画面 (タイムシフト機能付き)

5. 検証・評価

第79回全国大会の発表時に述べる。

6. まとめ

アプリケーションには、従来のジェンダー差によって見過ごされて評価もされてこなかった、男性が既知でなかった育児特有のケアワーキング評価値が表出することが可能である。例として、従来、外にいる男性は授乳時刻がいつだったのかは、評価してくれない時代が続いてきたが、今後は、スマートフォンデバイスによって共有が可能である。育児の情報は、日中に、ひとりで育児をする母親しか知り得ない情報であったが、オープンにすることで育児の参画は男性にも期待できる。アプリによる情報共有機能は、育児への男女共同参画に向けた仕掛けであり、研究を継続しながら社会でのジェンダー意識の変化を期待したい。

謝辞

新型アプリ開発は、研究課題/領域番号 26330360 テーマ「へき地の周産期母子と都市病院のつながり支援システムの開発評価」の関連研究に設定し、国の科学研究費助成事業のもと実施しており多大な支援に感謝します。

参考文献

- [1] 母子の健康科学, 我部山キヨ子, 医学書院, 2016
- [2] 小児看護学概論-子どもと家族に寄り添う援助, 二宮啓子/今野美紀, 南江堂, 2012